

北海道博物館第3期中期目標・計画の策定に向けた検討(考え方)について

5年ごとに中期的な目標・計画を定めており、本年度に第2期中期目標・計画期が終了することに伴い、現在、第3期(令和7～令和11年度)の中期目標・計画の策定に向けた検討を進めています。

1 策定にあたっての基本的な考え方・方向性

(1) 北海道博物館の「使命」及び「基本的運営方針」

北海道博物館の長期的な方向性であり、第3期中期目標・計画でも、これらを踏まえます。

【参考】「北海道博物館の使命」と「基本的運営方針」(抜粋)

I 北海道博物館の使命

- 北海道のすべての人、生き物、大地と海が生み出し、残し託してくれた、北海道ならではの自然・歴史・文化に関わる遺産を、わたしたちの大切な宝ものとして未来へとつなぎ、語り伝えることをとおして、道民が北海道を知り、誇りを確認する場であり続けます。
- 野幌森林公園という豊かな自然環境のなか、訪れた方々に北海道の自然・歴史・文化を総合的に体感していただくとともに、知的発見、癒やしとくつろぎ、世代を超えた語り合いや出会いを、おもてなしの心で提供し、道民に愛される博物館であり続けます。
- 北海道の中核的博物館として、道内の博物館等との連携により、北海道再発見のための知のネットワークを築き上げるとともに、北海道の自然・歴史・文化に関する身近な相談窓口として、道民の「知りたい」という気持ちに応えます。
- 北海道の自然・歴史・文化に関する総合的な研究機関として、北海道の国際化・文化力の向上や、持続可能な調和社会の構築をめざして、積極的なビジョンの立案・提言に努め、道民の豊かな暮らしづくりと北海道の未来づくりに貢献します。

II 基本的運営方針(抜粋)

- 1 北海道立の総合博物館として、備えるべき基本的な機能を検証し、その充実を図ります
- 2 道民と共に歩み、愛される博物館として、豊かな時間と空間を提供します
- 3 北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献します
- 4 専門的・総合的な研究を行う博物館として、北海道の未来に貢献します

(2) 第2期中期目標・計画からの新たな要素・変更点

北海道立総合博物館協議会(以下、「協議会」)の御意見のほか、博物館法の改正など第2期中期目標・計画期間内に生じた社会情勢の変化を総合的に考慮して、第2期中期目標・計画から、新たな要素や変更点等を加えていきます。

2 第3期中期目標・計画の骨子(案)

(1)「重点目標」

中期目標・計画期において、個別の事業・業務をまたいで、館全体として新たに目指す／打ち出す方向性として、「重点目標」を置きます。

第3期中期目標・計画(現状の案)	背景・考え方
■令和7年に北海道博物館が開館して10年を迎える。これまでの10年間の博物館の運営・事業において残してきた課題について、段階的な解消を意識して事業を進める。	道民と連携・協働する博物館としての取組や、中核的博物館としての取組など、これまでに協議会で指摘されてきた課題のいくつかは開館(平成27年度)以来、未達成であるため、開館10年を機に、改めてそれらの解消・達成を意識する。
■多様な来館者がそれぞれに、安心・安全な施設として訪問・利用できる博物館であるための取組を推進する。	施設のバリアフリー、感染症対策などのほか、案内・解説の多言語化、ハラスメント対策のためのガイドライン策定など、様々な来館者が博物館をより利用しやすくなる取組を進める。
■多様な学習ニーズを踏まえて、「道民の知りたい気持ち」「学校教育などでの新たな学びのかたち」に対応し、特に博物館としての特徴を活かした情報発信・情報提供を強化する。	博物館が有する資料・資源を広く利活用していただくための取組・活動について、館内(来館)／オンライン(発信)を問わず、従来の博物館活動のほかに、新たな取組・展開を推進する。
■「北海道立総合博物館を中核とした野幌森林公園エリアの文化観光推進拠点計画」(文化芸術振興費補助金、令和5～9年度)が採択されたことにより、同計画に基づく事業を実施するとともに、事業終了後も新たな補助金の獲得により本計画の維持・拡充を図る。	博物館法の改正により、文化観光拠点施設としての博物館の役割を意識した取組を進める。

【参考】第2期中期目標・計画

- ① 北海道開拓記念館開館50年(令和3年)、野幌森林公園自然ふれあい交流館開館20年(令和3年)、北海道開拓の村開村40年(令和5年)、北海道立アイヌ民族文化研究センター開所30年(令和6年)を機会に、それぞれの活動と成果の蓄積を特に未来を担う若い世代、子どもたちへと継承する事業を展開します。
- ② 道民参加型の活動の推進により、博物館に対する認知と愛着の醸成に努めます。
- ③ ウポボイ(民族共生象徴空間)とりわけ国立アイヌ民族博物館との連携を含め、北海道内博物館の活性化に貢献します。
- ④ 樺太(サハリン)に関わる資料の収蔵・保管、調査研究、展示活動を推進する「樺太記憶継承事業」を推進し、樺太研究の拠点化を目指します。

(2)「事業別項目」の構成(項目立て)

北海道博物館が取り組む事業については、その内容から「事業別項目」に分けて記載します。

第3期中期目標・計画(現状の案)	【参考】第2期中期目標・計画
1 資料の収集・保存	① 資料の収集・保存
2 展示	② 展示
3 調査研究※	③ 調査研究
4 教育普及事業	④ 北海道開拓の村の整備
5 地域との協働と活性化への貢献	⑤ 教育普及事業
6 野幌森林公園内の活性化と整備※※	⑥ ミュージアムエデュケーター機能の強化
7 広報	⑦ 施設及び周辺環境の整備
8 評価と利用者調査を活用した管理運営	⑧ 広報
9 道民参加の推進	⑨ 評価制度の活用と利用者ニーズの把握
10 博物館ネットワーク	⑩ 道民参加の推進
11 情報発信	⑪ 博物館ネットワーク
12 人材育成機能の強化	⑫ 情報発信
	⑬ 人材育成機能の強化と社会貢献
	⑭ 研究成果の発信
13 アイヌ民族文化研究センターの事業	⑮ アイヌ民族文化研究センターの事業

※ 第2期の「③調査研究」と「⑭研究成果の発信」を一体的なものと位置づけて、項目を統合。

※※第2期では「北海道開拓の村」と「博物館施設」「周辺環境」(野幌森林公園)が別の項目(④と⑦)だったが、森林公園エリア全体の一体的な整備・活性化のため、項目を統合。

また、それぞれの事業別項目の記載においては、「計画」と「目標」の関係を整理し、項目ごとに「計画」と「目標」を分けて記載します。

「事業別計画」……恒常的・日常的な事業の実施方針。

「事業別目標」……5年間の具体的な到達目標

(3)事業別項目における新たな要素や変更点(主なものを抜粋。検討中のものを含む)

第2期中期目標・計画において達成した取組みについては次のステップに向けた取組みを検討するほか、協議会での意見等を踏まえて新たに追加する要素として、考えているものです。

第3期中期目標・計画(現状の案)	【参考】第2期中期目標・計画における 左の内容に対応する内容(概要)
○ 資料の収集・保存(資料の管理と利活用) ・資料情報・画像等の公開(デジタルアーカイブ)を推進 ○ 展示(総合展示室の運営) ・多言語解説の充実 ・総合展示の改修 ・展示室内の誘導・案内をわかりやすく改修 ○ 展示(企画展示の開催) ・道民参画による企画展示の推進(特に注力する取組として特記) ○ 調査研究 ・研究の促進を目的とし、目標値を設定(当館刊行物等も含めた研究成果の発表数) ○ 教育普及事業 ・オンライン事業の推進を図る ○ 広報 ・多言語案内や SNS との連動を含む、ウェブサイトのコンテンツ充実化を拡充。 ○ 野幌森林公園内の活性化と整備 ・施設内におけるバリアフリーの推進 ・開拓の村の歴史的建造物内の展示改修 ・案内・展示解説等の多言語化等を通して、野幌森林公園の一体的な活性化を図る	○ 資料の収集・保存 ・収蔵資料データベースを適正に運用 ○ 展示(総合展示室の運営) ・定期的な入れ替えによる飽きない展示 ○ 展示(企画展示の開催) ・研究成果の反映、他機関との連携、道民参加による企画展示の開催 ○ 調査研究 ・北海道の自然・歴史・文化についての調査研究 ○ 教育普及事業 ・来館者のニーズに対応した行事 ○ 広報 ・職員全員による積極的な広報活動の展開 ○開拓の村の整備／施設・周辺環境の整備 ・施設内のアメニティの充実 ・開拓の村の歴史的建造物の展示充実 ・公園内施設(北海道博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館)の連携強化